

東京合唱団定期演奏会

巨匠たちの知られざる名曲を聴く
日本語字幕付き

ドヴォルザーク：テ・デウム
Antonín Leopold Dvořák : Te Deum

ベートーヴェン：ミサ曲ハ長調
Ludwig van Beethoven : Mass in C major



●ソプラノ：クリスティアーネ・カイザー Kristiane Kaiser

●アルト：谷地畝 晶子 Yachiune Shoko

●テノール：与儀 巧 Yogi Takumi

●バス：山下 浩司 Yamashita Koji



●指揮：前田 幸康
Maeda Yukiyasu

合唱：東京合唱団
管弦楽：東京KMG管弦楽団

2025年7月26日（土）日本製鉄紀尾井ホール

開演 2:00pm (開場 1:15pm)

5,000円 (全席自由)

チケット取り扱い：2025年5月20日(火)販売開始

チケットぴあ <https://t.pia.jp> Pコード：295-265



日本製鉄 紀尾井ホール

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 6-5 Tel. 03-5276-4500

★四ツ谷駅 (JR線・丸の内線・南北線) 麴町口 徒歩6分

★麴町駅 (有楽町線) 2番出口 徒歩8分

★赤坂見附駅 (銀座線・丸の内線) D出口 徒歩8分

★永田町駅 (半蔵門線) 7番出口 徒歩8分

※開場時刻前のご来場はお控えください。ホール内外とも、お待ちいただくスペースがありません。一般のお客様のための駐車・駐輪場はありませんので、公共交通機関の御利用をお願い致します。



テ・デウム ドヴォルザークの米国への手土産

米国では10月に「コロンブス・デイ」という祝日があります。コロンブスが西回りでインドに到達しようとして、アメリカ大陸を「発見」したとされる1492年10月12日に因んだ祝日です。

さて、時は1892年。アメリカ「発見」からちょうど四百年記念の年でした。ヨーロッパで名声を確立し、ニューヨーク・ナショナル音楽院の院長として招聘を受けたドヴォルザークはこの年、招聘を受諾・赴任するにあたり、記念祝賀の曲を依頼されたのでした。依頼主は、音楽院の設立者でもあった富豪のジャネット・サーバー夫人。彼女は、曲をつける詩を送る約束をしたのですが、それがなかなか到着しないため、ドヴォルザークは、祝典にしばしば採り上げられる古い祈りの聖歌「テ・デウム」を自ら選んで作曲し、大西洋を渡ったのでした。

つまりこの曲は、ドヴォルザークが米国に持参したボヘミアの香りがする手土産です。そして「新世界から」が書かれる直前の作品です。あの交響曲の響きも、聞こえてくるかもしれません。

ミサ曲ハ長調 ベートーヴェンの合唱曲なら、これ！

ベートーヴェンが遺した「ミサ曲」では、最晩年「第九交響曲」と同時期に書かれた「ミサ・ソレムニス」が圧倒的に有名です。比べて、壮年期「第五交響曲」と同時期に書かれた「ハ長調ミサ曲」は、聴く機会がずっと少ないと思われがちです。

でも、しかし。NHKのラジオ番組「バロック音楽の楽しみ」や「音楽の泉」の解説で親しまれた音楽史学者の故・皆川達夫先生は、著書でこんなふうにご紹介されています。

「(ミサ・ソレムニスに)深い畏敬の念をいだきはするものの、常に聴いていたい音楽とは申しかねます。(略)有名な『第九交響曲』第四楽章でさえも、わたくしはこの作品の他の楽章ほどの内面的かつ音楽的な深みを感じることができません。むしろ、同じ交響曲の第三楽章や、比較的小規模なハ長調ミサ曲に聴き入りたい気持ちです」(『皆川達夫セレクション 宗教音楽の手引き』日本キリスト教団出版局、2024年刊)

ベートーヴェンの合唱曲なら、「ミサ・ソレムニス」より「第九」より、このハ長調ミサ曲を、とおっしゃるのですよ。聴いてみたくありませんか？

ソプラノ：クリスティアーネ・カイザー Kristiane Kaiser Soprano
ザルツブルク・モーツァルテウム大とウィーン国立音大で、宮廷歌手のM.リロヴァに師事。欧州各国のコンクールで成功を収め、ドイツ、スイス等のオペラハウスに多数出演。2004年にウィーン・フォルクスオーパーの専属ソリストとして契約。2005年に「エバーハルト・ヴェヒター・メダル」を授与された。2016年ザルツブルク音楽祭にデビュー。宗教曲にも定評があり、ヨーロッパ各地で演奏している。2022年ウィーン・フォルクスオーパーで宮廷歌手の称号を授与。サントリーホールジルヴェスター・コンサート2025、ニューイヤー・コンサート2026にも出演予定。

テノール：与儀 巧 Yogi Takumi Tenor
国立音楽大学大学院修了、ボローニャで研鑽を積んだ。第6回東京音楽コンクール第1位、及び聴衆賞受賞。2013年に紀尾井ホール主催によりリサイタルデビュー。二期会『イドメネオ』タイトル・ロール、新国立劇場『オテロ』カッシオ役で成功を収めた。近年では、全国共同制作オペラ『夕鶴』与ひょう役、『こうもり』アルフレード役で好評を得る。パッハのカンタータ、モーツァルト「レクイエム」等の宗教曲もレパートリーとし好評を博している。NHK「ニューイヤーオペラコンサート」や「名曲アルバム」等にも出演。二期会会員。2025年度から東京藝大准教授。

アルト：谷地 晶子 Yachiune Shoko Alto
岩手大学教育学部芸術文化課程音楽コース卒業。東京藝術大学音楽研究科博士後期課程独唱科修了。第16回日仏音楽コンクール第1位。2012年度三菱地所賞受賞。これまでにJ.S.バッハ「クリスマス・オラトリオ」「ロ短調ミサ」「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト、ヴェルディ、ドヴォルザーク、デュルフレの「レクイエム」、ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」といった宗教曲のほか、ベートーヴェンやマーラーの声楽つき管弦楽作品でもソリストをつとめている。岩手大学、盛岡大学短期大学、盛岡看護医療大学校非常勤講師。

バス：山下 浩司 Yamashita Koji Basso
国立音楽大学大学院歌曲専攻修了。その後ウィーン国立音楽大学で研鑽を積む。第9回日本モーツァルト音楽コンクール第1位。オペラでは東京二期会、サイトウキネン・フェスティバル松本、東京・春・音楽祭等で、モーツァルト、ワグナー、R.シュトラウスなどの作品で次々と注目の公演に出演を重ねる。また、ベートーヴェン「第九交響曲」、モーツァルト「レクイエム」、バッハの受難曲をはじめとする数々の宗教曲およびコンサートのソリストとしても全国各地で活躍している。男声ユニットIL DEVUのメンバー。二期会会員。国立音楽大学教授。

指揮：前田 幸康 Maeda Yukiyasu Music Director & Conductor

国立音楽大学卒業。チェロを小沢弘、黒沼俊夫、小野崎純の各氏に師事。1973年渡欧し、Prof.マルティン・オースタータークに師事。1974年から2010年までフライブルク市立交響楽団のチェロ奏者。前田幸市郎から指揮の指導を受け、1990年以来、日本において活動をしている。1985年にフライブルク市よりカンマームズィカーの称号を贈られ、1998年には同市より国際文化交流功労賞を授与された。2009年には日本国外務省の国際文化功労賞を受賞。元上野学園大学弦楽部会主任教授。鎌倉・湘南ビューネンフェライン会長。東京合唱団音楽監督、指揮者。

東京合唱団 / 東京KMG管弦楽団

東京合唱団は、現在の音楽監督・指揮者の前田幸康の尊父にあたる前田幸市郎を指導者として1954年に発足。ブルックナーの3つのミサ曲、ドヴォルザーク、デュルフレのレクイエムなどを本邦初演し、日本の宗教音楽演奏史に大きな足跡を遺した。1989年、前田幸市郎逝去に伴い活動休止を余儀なくされたが、子息・幸康を第2代指導者として再出発し、以後紀尾井ホール(現・日本製鉄紀尾井ホール)を中心に36回の演奏会を積み重ねてきた。東京KMG管弦楽団は、プロ・オーケストラの首席クラスの奏者を中心とし、東京合唱団との共演を重ねている。

